

総務企画部総務課長
宇都宮 裕 様

福祉事務所子育て支援課長 松田 禎子

会 議 要 録

名 称	平成 29 年度西予市子ども・子育て会議	
事 務 局	西予市福祉事務所 子育て支援課	
	電 話 0894-62-6551	
	F A X 0894-62-3055	
開 催 日 時	平成 29 年 2 月 19 日(月) 13 : 30 ~ 15 : 30	
開 催 場 所	西予市教育保健センター 第 1 研修室	
出席者	委 員	保育所保護者代表(私立) 松本靖 下宇和保育園 校長会副会長 兵頭茂博 石城小学校長 保育所長代表 宇都宮 美紀子 魚成・土居保育園長 幼稚園長代表 大田 七千夫 三瓶幼稚園長 児童福祉・事業主代表 柿内 誠司 西予総合福祉会 児童福祉・事業主代表 萩森 由美 三瓶福祉会 児童福祉・事業主代表 高橋 真人 西予市野城総合福祉協会 学識経験者 木下 弘規 主任児童委員代表 学識経験者 樋口 志保 県学童保育連絡協議会会長 <p style="text-align: right;">委員 9 名</p>
	事務局	子育て支援課 松田 禎子 宇都宮積矢 清家 昌弘 三好 和義 矢野 直子 松本 史子 学校教育課 松崎 美智 生涯学習課 中山 佑司 健康づくり推進課 権田 恭子 <p style="text-align: right;">行政 計 9 名 総計 18 名</p>

議事内容(要旨)

1. 開 会
 2. 子育て支援課長あいさつ
 3. 委員及び事務局等自己紹介
 4. 西予市子ども・子育て会議の役割について
 5. 議 事
 - (1) 西予市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況及び見直しについて
 - ア 量の見込みについて(P21~P29)
 - イ 進捗状況について(P31~P50)
 - (2) その他
 6. 閉 会
(質疑応答・意見)
2. 協議事項
- (1)
 - ア 事務局説明
(委員長) 西予市民病院の事業所内保育の施設種別は?
(事務局) 地域型保育の事業所内保育。
(委員長) 従業員枠を割った場合、地域枠に回せるのか?
(事務局) 可能。定員15人以内であれば、柔軟に対応できる。
(委員長) 今現在の申し込み状況は?
(事務局) 1名申込みあり。地域枠はまだ募集していない。
(委員長) 最初の1年目というのは、少ないもの。様子見で2~3年目から増えるかもしれないが…。
(事務局) まだ事業の規則が定まっておらず、募集かけられないのが実情。
イ 事務局説明
(委員) 放課後児童クラブについて、今後継続的に田之筋地区の子どもは宇和校区の児童クラブへ通うのか?
(事務局) 明下田クラブのキャパが少ない。今まで3、4年生をお断りしていた。相談しながら状況によって判断するので、継続かどうかは答えられない。田之筋の利用者一人一人に説明して回り、ほぼ皆さん、校区が変わっても学童に通いたいとのことだった。なるべく保護者のニーズに沿わせたい。
(委員) 先日、8名全員トトロクラブへ行くということで保護者の了解が得られた。
(委員) 今まで断ってきていたとのこと。現在の児童数は分かっているのだから、今後の分かっている範囲で、今後どうしていくかを決めたほうが良い。その場その場の対応ではなく、先手を打って対応してほしい。
それと、進捗状況についての報告について、給付支援係の資料は数字が入っていて分かりやすい資料になっている。数値が他の係には入っていない。給付支援係に比べて数値がつかみにくいのかも

ないが、全体像が見えない。目標数値が欲しい。ただこういうことをやった、ということしか書かれていない。プラン・ドゥ・アクションが回っていないのが残念。メール配信事業の対象世帯数はいくらなのか。具体的な話がほしい。こういうことが課題であるとか、良いこと・悪いこと両方ほしい。健康づくり推進課であれば、高校生への食育を行っているが保護者まで伝わっているのか。給付支援係についても、ここまで数字が入っているのなら、もう一つ、反省点があれば良かった。愛顔の子育て応援券の使用率が低い、その分析などが入っていればよかった。

(委員長) 指摘について、事務局から回答はありますか。

(事務局) 県の応援券は県の事業で3社限定だが、市の応援券は市の単独事業で幅広く使える。また、市の応援券は最大13カ月、県は最大24カ月の有効期限があり、先に市のほうを使って、後に県の利用が出てくるのではないかと思う。

(事務局) 補足として、県の応援券は紙おむつ限定のため、成長段階に応じて購入すると思われる。使いやすいように県に今後要望もしていく。

(委員長) 田之筋について、何かありますか。

(事務局) 先日、保護者に説明会を開いたところ。野村、中川と違う点は、公民館主事主体で行っていたところを、田之筋の子ども教室では地域の人たちが主体となる。良いモデルプランになればと思っている。

(委員長) 学童が定員いっぱいなので、その分放課後子ども教室で、いう認識で良いのか。

(事務局) 放課後子ども教室は、夕方6時までで該当する子どもたちになる。6時までに迎えに来られない場合、学童という形になる。

(委員) 食育について、学習はしていくが保育園で実際に食べたりすることはない。給食で食べることができたら良いなと思う。学校ではイノシシコロッケが出た、とか聞くが(保育園ではない)。保育園の献立にも是非できる範囲で入れてもらったら。栄養士さんをお願いしたい。

(事務局) 月1回、栄養士の集まる献立会があると思うので、伝える。

(委員) 幼稚園でも預かり事業が増えている。幼稚園の保育化、保育所の幼稚園化が進み、それが認定こども園という認識を持った。希望する保護者の理解を深めることも大切で、ただ保護者のニーズを聞くのではなく、幼稚園・保育園とはこういう所なんだよ、ということを伝え、親としての自覚を促すことも事業の中でしていかなければと、大事なことなのかなと思った。

(委員長) 預かりはどれくらいいるのか。

(委員) 3分の1くらい。多くなる半数以上、預かってくださいとなる。

(委員長) 共働きが当たり前の時代な。預かってもらわない子も祖父母が見ていたりするので、将来的には全員預かりになるのではないか。

(委員) それも予想される。しかし職員には幼稚園職員という自覚も持ってほしいので教育と預かりは分けている。そういった説明をしてもただ困っているので預かってほしい、ということが多い。うちは私立であるため、色々意識を高めてやっているつもりだが、どんどん保育化しているなという印象。

(委員) 学童保育については、早く方向性を決めてもらいたい。宇和や中川にしても去年より児童数は増えている状況。面積上、厳しい。場所さえあれば、応えたい気持ちはある。子育て支援課・生涯学習課と全部が一体となってやってほしい。また相談していく。

(委員) 学校教育課の発達支援について、最近気になる子どもが多いのだが、生活支援員 48 名に驚いた。これだけ学校に支援の必要な子がいるということは、学童にもそれだけいるということ。診断などが出ていなくても、支援が必要な子が多い。子育てメール配信については、とても良いと思った。子育て中のお母さんは情報に飢えている。口コミなどでイベントなどにどっと来る。大きなイベントの周知には是非利用させてもらいたい。

(委員) 福祉分野の会議にはよく出席するが、子育て関係のこういった会議に出ることで勉強になる。通院支援は良いと思った。

(委員) 私も、こういう事業、支援があったのかと新たに知ることが多く、勉強になる。ネットなどで情報を集められるお父さんお母さんは良いが、知らない方や、知っていれば使いたかった、という人もいるかもしれない。おじいちゃんおばあちゃんも、知れば伝えることができるので、対象者だけでなく、広く伝える努力をしてほしい。中央図書館もでき福祉総合施設のようなものができるが(宇和病院跡地に)、そういったこともどれだけの市民が知っているのかなと思う。子育てに悩んでいる保護者に、相談しやすいところ、子育て相談窓口が今度できる福祉施設にできれば良いなと思った。出かけた機会に相談できる場所。なかなか市役所に相談へ行くのは敷居が高い。子育て支援課という課もできたので、核となって子育て支援をやってほしい。

(委員長) 現在そういった窓口はありますか。

(事務局) 妊娠届の時と、子どもが生まれたら保健師が全戸訪問している。全てをカバーできているとは思っていないが、今後メール配信も予定。

(委員長) 商業施設の一部にそういうコーナーがあったら良いが、市役所に行ってというのは、やはり相談しにくい。

(事務局) 各支所でも担当がおり、本庁には家庭児童相談員、母子自立支援員がいるが、おっしゃる通り市役所のみである。

(委員長) 窓口で良い。そこから各課に連携していってもらったら。

(委員) 今度のこども園(うわまち未来こども園)にはそういった窓口を設置する予定。特養にもケアマネを配置して相談窓口を作る。

	<p>それらをどう発信、周知していくか今後の課題。また市とも連携していきたい。</p> <p>(事務局) 妊娠届の受付の際にアンケート形式でどんなお母さんか把握し、訪問もよほど里帰り出産とかでもない限り、ほぼ全戸訪問できている。お母さんも様々で、支援が必要な人がある。自分で手を挙げる人もいれば挙げない人も。育児相談も定期的の実施しているが、埋もれているお母さんもいる。今後はメールやアプリで包括的な支援をしていきたい。</p> <p>(委員) 皆さんが一所懸命よくやっているのは分かったが、どれだけ周知していくか、発信していくかが重要。出向いていくことはできないが、情報はすぐほしい、という保護者への対応。メール配信についてもどうやって SNS があることを伝えるのか、ということは今後検討してほしい。この計画に書いてあるように、「子育てするなら西予」をどうやっていくのか。計画ではこの人口減少の中、人口維持するために、とある。子育て支援がどれだけ人口維持に貢献しているのか、という指標がほしい。</p> <p>(委員) 52 ページ、53 ページの「計画を推進するための役割」が6つ挙げられているが、一番が保護者。色々なことの啓発が大事で、学校からも行っていきたいと思った。</p> <p>(2) 意見なし</p> <p>閉会 松田 課長</p>
備 考	【会議次第】